

8. 河道の特性

尻別川の特性について日本全国の一級河川(全 109 河川)と比較してみると、①流域面積で 42 位の大きさである、②幹川流路延長で 33 位の長さである、③河床勾配は比較的急である、④流域の形状は細長い形状をしており、流域形状係数(流域面積/幹線流路延長²)は 83 位である。また、尻別川の全流域に占める平地率は約 12%であり、山地流域として分類され、水資源は豊富で、流出率の変化は小さい河川である。

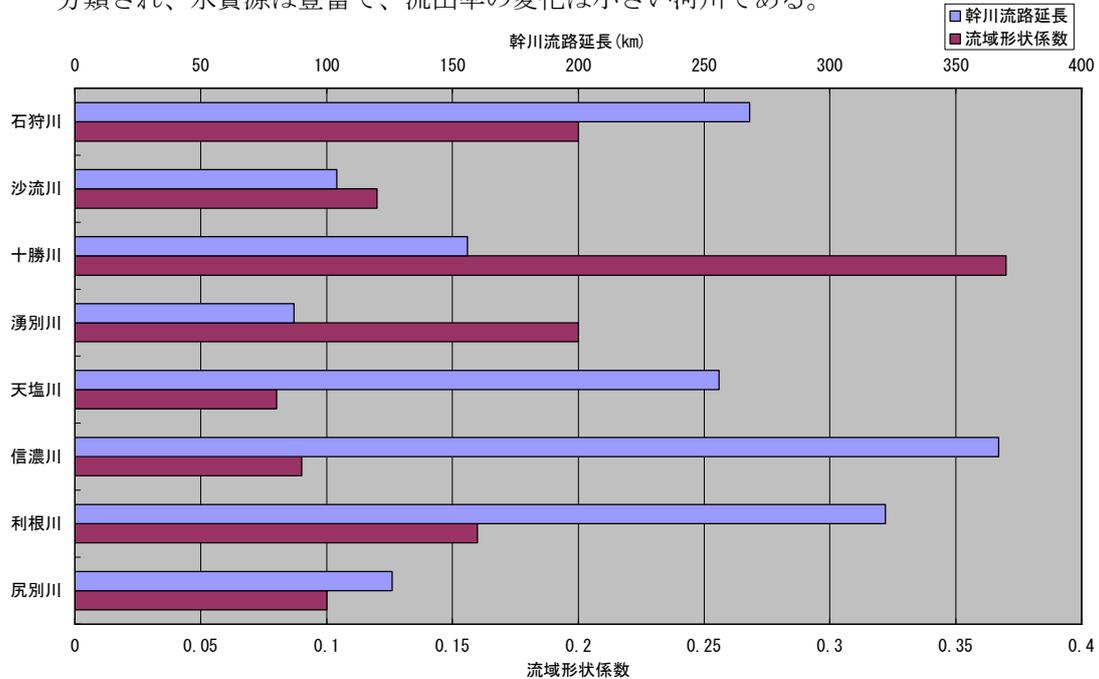


図 8-1 流域形状係数の比較

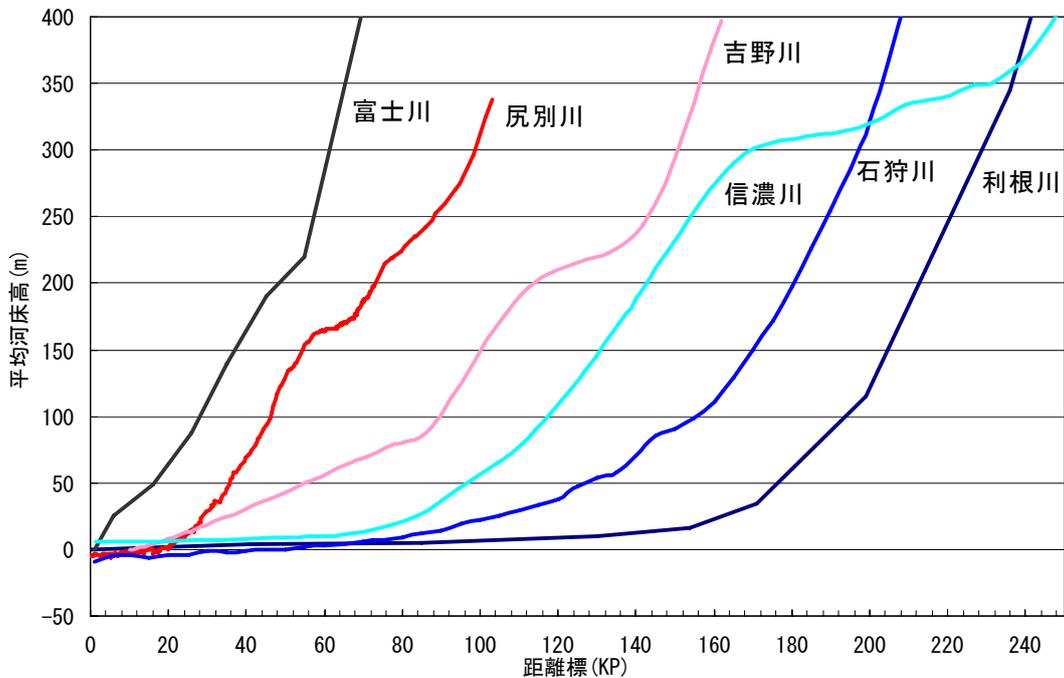


図 8-2 主要河川縦断図

8-1. 尻別川の河道特性

尻別川は、その源を支笏湖流域との分水界をなすフレ岳(標高 1,046m)西方に発し、オロウエンシリベツ川、喜茂別川等の支川を合わせて、ニセコ町において真狩川、昆布川等の支川を合流した後、逆川、目名川などの支川を合わせて蘭越町磯谷で日本海に注ぐ、幹川流路延長 126km、流域面積 1,640km² の一級河川である。

1) 上流域(源流部から喜茂別町付近)

河床勾配が約 1/20~1/60 程度の山間部急流区間であり、低水路は自然河川の様相を呈している。

2) 中流域(喜茂別町付近から蘭越町付近)

河床勾配が 1/130~1/250 程度であり、市街地周辺を除き、河川は急勾配の狭窄部となっている。そのため、この地形を利用し 6 箇所が発電用取水堰が設けられている。

3) 下流域(蘭越町付近から河口)

河床勾配が 1/500 から 1/5000 程度であり、アユやカワヤツメの産卵床が分布している。堤防は地形と河道の蛇行形状から山裾に取り付ける個所が多く、兩岸とも不連続の堤防で高水敷の幅が狭く、空間利用可能な地区は豊国橋の上下流に限られている。

また、尻別川に生息するサケ・サクラマス親魚の捕獲は、目名川の目名川橋下流地点で北海道さけ・ます増殖協会が「ウライ」を用いて行い蓄養、採卵受精後、独立行政法人さけ・ます資源管理センター-北海道さけますふ化場蘭越事業所に収容し、ふ化した稚魚を給餌飼育後放流している。特にサクラマスについては種苗生産河川として日本海は勿論、全道でも主要な役割を荷ないその貢献度は高く評価されている。

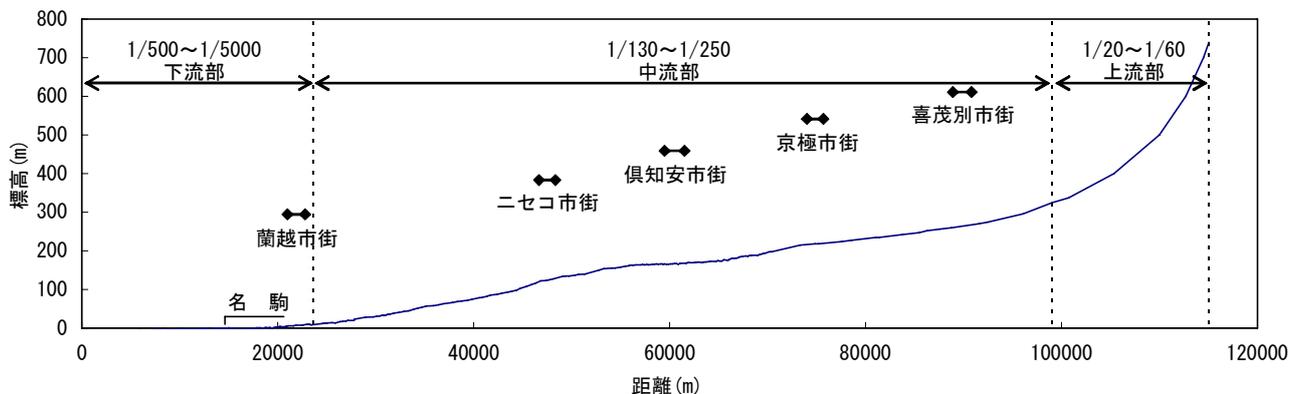


図 8-3 尻別川河床高縦断図